

足柄上医師会はインターネット
医療相談をやっています。



平成九年より当院長を中心にインターネット医療相談を開始し、平成十三年よりは、回答の医師数を多くして対応するようになりました。

平成 九年度	三四
平成 十年度	一〇四
平成 十一年度	一一五
平成 十二年度	三九八

・相談件数は年々増加しています。

・平成十二年度の三九八件についてまとめてみました。
医療機関に

受診前	一九七
受診後	一九三
その他	八

・まだ受診していない・・・二〇五件について
①病気がどうか

一三五



- ②何病か 四一
 - ③何科を受診したらよいか 一六
 - ④どんな検査をするのか 五
 - ⑤その他 八
- 予防接種、「・・・病」について教えて下さい

・受診したが・・・一九三件

- ①「・・・病」といわれたがどうしたら良いのか 八五
- ②言われた病名は正しいのか 二一
- ③治療は適当か 四五
- ④良い治療法は 三五
- ⑤他の治療法はないか 七

・受診した一九三名と医師との関係について

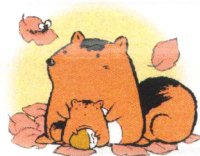


- 医師が信頼できる 三
- 医師との話がうまくゆかない 一四九
- 医師が信頼できない 二八
- 医師に悪感情を持っている 三
- 不明 十

患者さんは医者にご相談する前に悩んでいる。

相談の中で最も多いのは、「こんな症状があるが病気なのか、医者に診てもらった方が良いか」というもので「こんな症状があるが何病か」というものを加えると一七六で相談件数の半分近くになります。

患者さんは医者にご相談する前にたいへん悩んでいるということが良く分ります。



患者さんは医師と良く話し合えない

受診した患者さん達からの質問の「・・・病といわれたがどうしたら良いのか」

「他の治療法はないのか」

「良い治療法は」

ということ、診てもらった医師に聞けば良いのだがそれがやりにくい、何のために医師に診てもらっているか分からないが、医師の方に主な責任がありそうだ。



きりえ
高橋みね子作 (苺野在住)

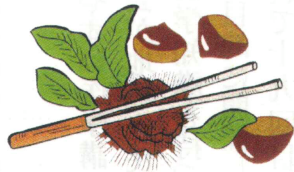
医師への不信感を持つ患者さんもいる。

「言われた病名は正しいのか」

「治療は適当か」

という内容の相談もありますが、これも主治医と良く話し合えば分るはずのことです。

結局は医師に不信感を抱くことになっていきます。



まとめ

患者さんは、何でも相談できる「かかりつけ医」を持つことが、必要なことが感じられます。

医師は、患者さんの相談には気軽に、心よく話し合つことができるよう、な雰囲気をつくるのが大切と痛感しました。

院長

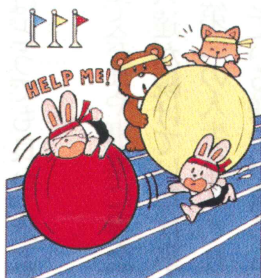
9月・10月の休診日

(日曜・祭日)

水曜・土曜・第一火曜午後)

10月20日(土)

E・メールを送って下さい。
norikazu@tecnet.or.jp



みなさんの質問や投稿をお待ちしております。
☆受け付けからのお願い
目初めには必ず保険証を受け付けにお出し下さい。
診察券は毎回お持ち下さい。